

二〇二三年二月一日

下萌を脱兔駈けしてあそぶ犬
石ひとつ置きたるが墓下萌ゆる
雛飾るわが手遊びの雛の絵も
飛翔せるスノーボードの空碧し
堵列せる陸軍墓碑に草萌ゆる
春風に乗りて特急縄電車
叱られて春の炬燵の隅にゐる
早春の雲を串刺しゆく機影
垂直にお尻を立てて鴨潜る

二〇二三年二月一日

広芝の斑模様 に青みそむ
起重機の春昼月へ鉤かけて
海風の香のとどきくる花菜道
冬霧の帳あけゆく里の朝
春の雪乗せて戻りし検診車
真つ直ぐに大路は雪の比叡へと
父偲ぶ振り子時計や冬座敷
風花や夫と日課のウォーキング

二〇二三年二月九日

マネキンの淡きブラウス春隣
竹林のそよぎて春の空を掃く
三代目は女杜氏や寒造
老眼鏡掛けて爪切る春日向
楽しげに除雪す親子頬真つ赤
子を寝かすやうに畳みぬ春裕

二〇二三年二月八日

腕白や霜柱踏み尽くすまで
ボール蹴り靴も飛ばす子春隣
春光を御手に掬ひし観音像

満天

はく子

やよい

あひる

ぼんこ

なつき

ひのと

たか子

せつ子

せつ子

もとこ

智恵子

やよい

ひのと

あひる

みづき

なつき

満天

せいじ

凡士

みきお

こすもす

ひのと

よう子

もとこ

ぼんこ

二〇二三年二月七日

春泥に筵かぶせて上棟式
物影のなべて柔らか春障子
朱の橋の影を過ぎりて春の鯉
くず野菜土に返れと畑返す
徐行運転雪国の道皆優し
春雪を跨いで来たり郵便夫
淀の葦焼きて春立つ大けぶり
梅東風にあひ打ちあへる恋の絵馬

二〇二三年二月六日

畑より戻りし夫へくず湯かな
野を駆けて来し子に春の匂ひあり
春寒し地球儀廻すだけの旅
描く眉毛左右揃はず春寒し
したたかな寒の戻りやシチュー煮る
吹き募る風に高舞ふ春の雪
芽を吹きてメタセコイヤは背を正す

二〇二三年二月五日

春禽の声に朝窓繰りにけり
母の膝奪ひ合うてはあたたかし
菜の花の島々結ぶ連絡船
膝深く曲げ寒明けの太極拳
玄関に泥つき大根置かれあり
凍雲に日輪の暈にじみけり
春浅き生簀の底に魚眠る
春泥を蹴散らす子らの草野球

千鶴

みきお

明日香

明日香

こすもす

ひのと

凡士

宏虎

明日香

ひのと

凡士

満天

千鶴

せいじ

はく子

せつ子

ひのと

みきお

素秀

せつ子

むべ

ひのと

智恵子

毎日句会みのる選・二〇二三年二月一三日